

HUB - IBARAKI ART PROJECT 2024 関連プログラムのご案内

HUB-IBARAKI ART PROJECT

主催が茨木市文化振興財団に移管されて初のプロジェクトとなる「HUB-IBARAKI ART PROJECT 2024」。本プロジェクトについては、第1回プレスリリース(最終ページにQRコードを記載しております、ご参照ください)にて展覧会と概要をお知らせしましたが、今回は関連プログラムの詳細に焦点を当てた第2回のプレスリリースをお届けいたします。

滋賀県在住の美術家・井上唯を招聘し、茨木市の山間部を中心に1年を通じたりサーチを行い、「循環」というテーマに取り組んでまいりました。2月22日より開催される展覧会をより深くご理解いただけるよう、記載の関連プログラムを実施いたします。



< デザイン：本村信裕 nobuhiro motomura (STUDIO GIGI) >

[HUB IBARAKI ART PROJECT2024 概要]

井上唯 『循環とは？土と水。人と開発。土地に生きるということ。』

会期：2025年2月22日(土)-3月15日(土)金・土・日曜のみ開催 ※(2月24日(月・休)は開催)

時間：12:00 - 18:00 (最終日3月15日は15:00終了)

3月16日(日)には作品を燃やし土に還す「とんど焼き」を開催

会場：茨木市市民総合センター[クリエイトセンター]1階 喫茶・食堂

〒567-0888 大阪府茨木市駅前四丁目6番16号

入場無料

内覧会：プレス及び関係者のための内覧会を2月21日(金)12時から開催します。
参加希望の方は、右記QRコードからお申込みください。



山と風景に学ぶ：山歩きと野草茶会（健脚向き）

3月8日（土）14:40-16:00

千提寺の展望台まで片道 20 分の散策路を外れて山の中も歩きつつ、自然や植物を通して、山や風景の成り立ちを学びます。案内人は高槻市立自然博物館あくあびあ芥川アドバイザーの高田みちよ氏。終着点の展望台では、開発が進む目の前の風景やその向こうに広がる大阪平野を眺めながら、山で採取した野草でお茶を沸かしてみんなで味わいましょう。

場所：千提寺 展望台周辺

[集合] 14:30 清溪公民館実習室（泉原バス停前すぐ）

参加費：無料 ※要申込（定員 10 名）

講師：高田みちよ（高槻市立自然博物館あくあびあ芥川アドバイザー）

アクセス：展覧会場より阪急バスで約 50 分、車で 20 分

[往路] 阪急バス 81 系統 [忍頂寺行] 13:46(阪急茨木市駅 [西口] 発) - 13:48(茨木市役所前) - 13:56(JR 茨木駅) - 14:29 泉原バス停着

[復路] 阪急バス 81 系統 [阪急茨木市駅 [西口] 行] 16:43(泉原発) - 17:20(JR 茨木駅) - 17:22(茨木市役所前) - 17:30 (阪急茨木駅 [西口]) 着

蛍を呼ぶ「箒(ほうき)」づくりワークショップ

3月9日（日）14:00-15:00

かつて茨木にたくさん飛び交っていたホタル。夏の風物詩として江戸時代の人々も河原に集まって蛍の光を楽しんでいました。茨木市で「ホタル復活プロジェクト」に取り組む衣笠氏から、ホタルの生態や茨木で蛍を復活させたお話を伺います。その後、菜種がらを使って、ホタルを集めるため「がら箒」を作ります。作った箒は持ち帰り、次の夏にはぜひ茨木の川へホタル観察へ行ってみましょう。茨木の自然と昔の知恵を楽しみつつ、少し未来のことや自然環境を考えてみる子ども向けのプログラムです。

場所：クリエイトセンター 3 階工芸創作室

参加費：無料 ※要申込（定員 10 名）

対象：小学生以上、親子での参加歓迎

講師：衣笠末男（わいず倶楽部ホタルプロジェクト）

とんど焼き：土に還す営み

3月16日（日）15:00 頃 - * 燃やす時間は 10 分 ~ 30 分程度を予定しています。

展覧会終了翌日に、出展作品の一部と作品制作の過程で生じた素材をすべて燃やし、灰にして、土に還す「とんど焼き」を新池の南側で実施します。この「とんど焼き」では、作品が土に還っていく過程そのものも作品の一部として捉えています。

場所：新池の南側（茨木市宿久庄 4 丁目）Google Map: <https://maps.app.goo.gl/Dqnvtsyay6D8fB8m8>

参加費：無料

後援：豊川地区まちづくり協議会

協力：鳥羽自治会、鳥羽とんど焼き保存会

アクセス：展覧会場より阪急バスで約 45 分、車で 20 分

寄り停留所：阪急バス 鳥羽（徒歩 5 分）豊川一丁目（徒歩 15 分）、駐車場（台数制限有り）は事前予約制

展覧会開催までの主な取り組み 02

①「椿山」で自然を感じる体験：地域の子供たちと野草茶会&草木染めワークショップ

2025年1月、関連プログラムの一環として、「椿山延寿林」で地域の子供たちと野草茶会と草木染めのワークショップを開催しました。この椿山は、新御堂筋の道路開発のため伐られる予定だった無数の椿を、故岡田種雄氏が引き取って自らの山に根付かせたのが始まりだそうです。現在は孫の岡田憲明さんが家族で守り続けています。ワークショップでは、岡田さんと地元の野草の専門家・三宅恭子さんを迎え、椿山周辺で採取した野草の「お茶づくり」や、椿の草木染めも行いました。このプログラムは、自然にあるものを活用した文化体験を通して、自然環境の魅力を再認識するきっかけとなり、「循環」をテーマとしたプロジェクトのコンセプトともつながっています。



②「茨木の土と草木で作る土器ワークショップ：作る編」

2月1日には、茨木市豊川地区にある、いのち・愛・ゆめセンター分館にて「茨木の土と草木で作る土器ワークショップ：作る編」を開催。講師に豊川で活動する陶芸家の中村信彦さんを迎え、この地域の造成地から採取された数百万年前の大阪層群の粘土を使用して、お茶を飲むための土器を制作しました。この粘土は地域の歴史を感じさせる貴重な素材で、豊川地区の皆さんと共に粘土の特性を学びながら土器作りに挑戦。完成した土器は2月8日から【茨木の土と草木で作る土器ワークショップ：窯焼き編】にて焼成され、会期中のプログラムで実際に使用される予定です。



< 制作・リサーチの様子 >



協力：安威川上流漁業共同組合、アグリファーム佐保、市原野町自治会（滋賀県）、茨木市環境衛生センター、疣水磯良神社、追手門学院大学、里山センター、椿山延寿林、鳥羽自治会、鳥羽とんど焼き保存会、豊川地区まちづくり協議会、NPO 法人北摂やままち倶楽部、ibabun 手芸部、サポーターのみなさま

HUB-IBARAKI ART PROJECT

ディレクター：内田千恵

アドバイザー：雨森 信

第1回プレスリリースは、
右記のQRコード又は、
公式サイトからご覧下さい。



取材のご依頼・広報に関するお問い合わせは、下記までお気軽にお問い合わせください。

< お問合せ・主催 >

公益財団法人 茨木市文化振興財団

〒567-0088 大阪府茨木市駅前四丁目6番16号

茨木市市民総合センター（クリエイトセンター）1階 文化事業係

公式サイト：<https://hub-ibaraki-art.com/>

TEL：072-625-3055（10:00~17:00）E-mail：info@hub-ibaraki-art.com

FB：@HUBIBARAKIARTPROJECT X：@HubIbaraki Instagram：@hubibaraki_art